

目 次

はしがき

序 章 現代国家をめぐる認識	1
1 国家と民営化	1
2 日本における NPM の影響	6
3 現代国家と公法学	8

第 1 部 方 法

第 1 章 現代国家をめぐる〈認識〉	17
1 国家概念再考	17
2 新世代の憲法理論	21
3 多元的行政の憲法理論へ	30
4 認識のための道具	35
第 2 章 統治を支える規範	42
1 “Gewaltengliederung”	42
2 行政の統一性と独立性	46
3 「正当化」と「正統化」	48
第 3 章 ガバナンスと憲法理論	51
1 制御学的发展としての「ガバナンス」	53
2 規律構造の概念	64

第 2 部 理 論

第 1 章 民主的正当化論 ————— 83

- 1 一元型モデル 85
- 2 多元型モデル 95
- 3 「機能的自治」——リッペ団体判決 115
- 4 ヨーロッパにおける民主的正当化 126
- 5 多元型モデルの問題点と利点 131
- 6 修正型多元的モデルへ 136

第 2 章 参加と受容 ————— 142

- 1 受容概念とその背景 142
- 2 国民投票と調停 148
- 3 直接民主制の民主的正当性 152

第 3 部 組織・構造

第 1 章 国家の権力独占（民営化）————— 161

- 1 国家の権力独占と民営化 162
- 2 民営化に対する憲法上の規律 173
- 3 民営化と民主的正当化モデル 182
- 4 小 括 193

第 2 章 行政の統一性 ————— 195

- 1 指揮権と監督権 195

2	行政の統一性と民主的正当化論	199
3	「指揮からの自由」と民主的正当化	209
4	中央銀行の独立性	216
5	公証人に対する国家監督	221
6	専門家委員会の法的規律	228
第3章	改めて民主的正当化論から	243
1	正当化論とガバナンス	243
2	責任問題としてのガバナンス構想	248
結	民主的正当化に基づく憲法理論	255
1	まとめ	255
2	ガバナンス構想と国家概念	258
3	代表制と民主的正当化	258
4	おわりに	260
謝 辞		
初出一覧		
索 引		